

第2セッション

都市の魅力を将来にわたって持続するための方策



アン・ルーデン Anne Ruden
ノルウェー国立住宅銀行担当
局長、OECD都市政策作業
部会副議長



松尾 稔 Minoru Matsuo
前名古屋大学総長、名古屋大
学名誉教授、なごや環境大学
学長、財団法人科学技術交流
財団理事長



中井 検裕 Norihiro Nakai
東京工業大学大学院社会理工
学研究科教授



ウルリッヒ・ズイロウ
Ullrich Sierau
ドルトムント市(ドイツ) 評
議員・都市計画局長

将来にわたって都市の魅力を持続するに
は、市民や民間が参加することが成功の要素
であり、様々な民間セクターを巻き込むこと
が重要である。

参加のプロセスは合意形成や見解にも大き
な影響を与えるため、透明性と能力を高める
こと、長期的な見通しを保障していくことが
大切である。



キース・ソーブ Keith Thorpe
英国副首相府(ODPM)都市政策局都市政
策課長



ルーデン議長

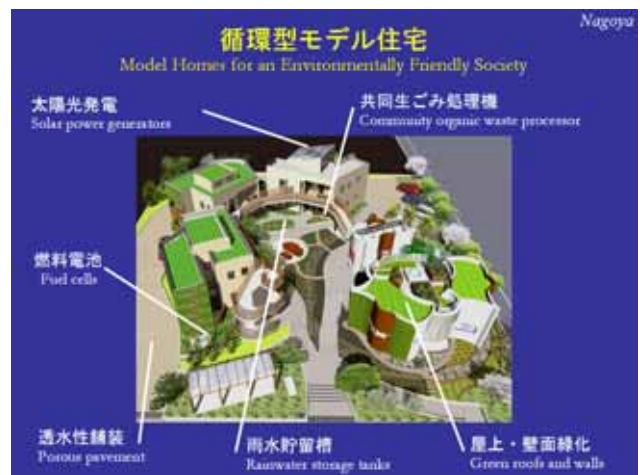
持続可能性について、経済と社会、文化を含めた環境が魅力の資産になることと、多様な主体の参加の可能性が一番重要であると思うこと、どこかに住みたい、住まわせたいなどという魅力づくりについて、物理的なことだけでなく様々な側面があること、という2つのコンセプトについて議論したい。

松尾氏 ~環境首都名古屋を目指して~

名古屋は1889年に市制施行して、現在人口220万人、面積326Km²で、パリ、ローマと同規模の都市となっている。愛・地球博は環境の意識を高めるきっかけになっている。そのほか、1998年までごみの増加に伴い、資源化、減量化を呼びかけ、それ以来ごみは減ってきた。

交通手段については、CO₂の排出、エネルギー問題の解消に向けて総合交通体系の整備を進めている。名古屋においては、自家用車と公共交通の輸送分担は7：3であり、今後6：4を目標として進めようとしている。

なごや環境大学を2005年4月から発足したが、環境に理解のある市民を育てる必要性から作られたものである。その特徴は、積極的な市民参画型で行っていることと、多岐にわたる内容で89講座を開設する予定である。考え方としては、街中がキャンパスという捉え方で、環境の実践から都市の魅力を高めることを目指している。経済発展を目指すことも可能ではあるが、環境に配慮した環境首都を目指し、世界モデルとなることを通じて100年先に尊敬される都市でありたいと考えている。



中井氏 ~国際競争力を高める戦略、地方都市再生のための政策~

グローバル化は、競争の中でできるだけ良い位置をとることであり、国際社会の中で富を生み出す産業を都市に引きつけることである。一方、この逆のベクトルもあり、日常の生活の質を高めていくというコミュニティ・ディベロップメントを進めて、地域の自立性を高めていく視点もある。

この2つの現象が各地で見られるが、国際競争力を高めているものは、品川のアイランドシティ、ロンドン、ベルリンなど大都市に限られている。一方、ベルリンでは住宅と店舗の

複合開発も見られ、マンチェスターでは住宅修復、京都では町屋の再生など、コミュニティ・ディベロップメントという生活の質を高めるという別のベクトルの取り組みも見られる。

都市の再生は競争の中で生活の質を高めることであり、両方を達成することを目標にしなければならないと考える。従来の開発・計画システムは成長を前提としてきているとともに、強い規制により開発圧を制御しようとしてきた。これは、グローバリゼーションとローカリゼーションにマッチしない。

また、地方都市はグローバリゼーションに対応するためには、日本の場合には市街地が広がりすぎており、どのように縮小させていくかが政策課題になる。コミュニティの再生は、地域力を高めることが必要である。コミュニティとは都市の細胞のようなものであり、市民等とのパートナーシップの構築が極めて大切であり、最もコミュニティに近いレベルの地方自治体での都市政策が必要である。



ズィロウ氏 ~サブセンターの形成~

ドルトムントはルール地方の一部であり、人口約60万人と安定しているが、失業率は18%とかなり高い。しかし、IT、マイクロエレクトロニクス、バイオなどの雇用が増えており、住民を巻き込んで専門家とともに多くのプロジェクトを行ってきた成果である。

エムシャールパーク・プロジェクトにより、工業地区を減らして魅力ある住宅地にすることや、景観地区を増やすことに努力してきたが、サブセンターの形成が重要な課題になっている。

都市のサブセンターは都市の潜在力を高める拠点であり、住宅・交通・環境のマスタープランを作っているが、市民を巻き込んでどのような方向にするのかを決めることが重要である。都市開発やエネルギー効率について直接話し合い、難しい問題でも市民に隠さずに提起することで信頼性が生まれた。透明性が非常に大切である。

また、ドルトムントでは小売業をうまく配置するため、ビール工場跡地を開発しビルにして新しい店を作ろうとしている。新しい産業についても軍の兵舎があった所を利用し、テクノロジーパークなどができている。

都市の持続可能性を高めるためには経済的、環境的、社会的、文化的な政策の四つの柱が重要である。公共スペース活用のために、民間投資プロジェクトを行うことは、将来の推進力となる。

Conclusions (1)



- Sustainability is the important aim for development
- The equality and balance between the 4 sectors economic, environmental and social sustainability and participation has to be attended in all planning strategies.
- General concepts and plans establish a reliable framework for sustainability as well as for public and private investment.
- Public investment in public space and infrastructure is followed by private investment in retail, office buildings, housing and large scale projects.

Conclusions (2)



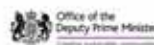
- Numerous activities and projects in the construction sector and the positive price trend in the real estate sector illustrate the positive development of the municipality
- Realization of the concepts, plans and projects empowers the trust in the sustainable strategy for the future
- Dortmund is on its way to a better future. The attractiveness of the municipality and the quality of life is growing and encourages more action to achieve a formidable urban future.
- FIFA World Cup 2006 will give Dortmund a place on the global map

ソープ氏 ~質の向上と持続可能なコミュニティの条件~

イギリスの都市政策において、今だけでなく、将来にわたって住みたいと思うように、都市だけでなく農村も利益を得るようにということが、持続可能性に関する課題である。1999年におけるロジャーズの「都市のルネッサンス」という考え方から場所の質という概念が生まれた。場所の質について重要なことは、リバプール・ビジョンなどによる取り組みでは、都市の中央部へのアクセスを高めて経済的競争を高めること、荒廃地の再開発を行い都市の再活性化を図ること、そのためには輸送網が必要であることである。セフィールド、マンチェスターの都市開発においては、持続可能なコミュニティを立ち上げることや、そのための住民とのパートナーシップ、コミュニティ造語の協力により皆が効果享受することが重要であると分かった。

さらに、投資を行った結果、成功か失敗かを評価し、結果を知らなければならない。イギリスでは、都市再生を行った場所の方が、投資収益率が良くなっている場合が多い。

持続可能なコミュニティには アクティブかつ包括的で安全、効果的な運営が可能、環境を十分に考慮していること、デザインと建設性の良さ、つながり、交通やコミュニケーションなどの連携の良さ、成長・繁栄、サービスの良さ、すべての人々に公平で



Definition of "Quality of Place"



Source: Northwest Regional Development Agency

Quality of Place

"The sum of all those factors - cultural, local environment, public realm, housing, community safety, access, health - which together make somewhere - whether a town, city or region - an attractive place to live"

Source: Yorkshire Forward

local and regional government • housing • planning • fire • regeneration • social exclusion • neighbourhood renewal



Contribution of investment in 'quality of place' to city attractiveness

- Successful investment can bring substantial benefits:
 - Improve prestige and perceptions
 - Attract and retain workers
 - Increase social and cultural cohesion
 - Create a more sustainable local economy



Source: One NorthEast Development Agency

local and regional government • housing • planning • fire • regeneration • social exclusion • neighbourhood renewal

あること、という8つの条件がある。

これがすべてのひな型ではないが、チェックリストとして念頭に置くことが必要である。都市再生に当たっては、競争だけではなく、みんなで協力していくことが大切である。

イギリス政府は88の貧困地域を対象として、最低限のニーズが満たされるよう、ここ3～4年で様々な施策を行ってきた。その結果、犯罪率の低下、他の地域との差が縮まったことや結びつきが強くなったなどの効果が生まれた。このように、貧困地域の社会参画を進めるためには、「場所の質」を高めることが重要であり、すべての人々が利益を得るような環境づくり、都市と地方の協力・協調が必要である。

=ディスカッション= ソープ氏

市場とコミュニティの関係については、キングクロス駅の例などがあるが、イギリスの場合、法律によってコミュニティの支援と参加は公式に申請されなければならないようになっている。

松尾氏

市場とコミュニティについては、積極的に参加して、合意形成を図っていくしかないと考ええる。

中井氏

ヨーロッパでは、マーケットとコミュニティが対等であるが、日本ではマーケット側に偏っている大きな違いがある。日本ではマーケットはリージョンレベルで動いているので、発想を変えないとなかなかヨーロッパレベルにならない。

しかし、参加がキーワードでありその中から何かしらのアイデアが出てくるのではと考える。つまり、マーケットをどう参加させるかということと、コミュニティはプランニングの力を持つことが課題である。プランニングを行うためには、ボランタリーセクターの今後の役割について期待している。

ズイロウ氏

参加には初めは対立があるために、時間が必要である。また、すべての人が平等でなければならないのであり、参加と質のバランスが大切である。

石井氏（国土交通省）

日本では有力な民間資本が大都市に向かっているために、地方に民間資本が投資していくのかどうか課題である。

中井氏

地方にも国際競争に耐えられる企業があり、民間投資の可能性はあると思う。

ソープ氏

コミュニティと民間投資との関係では、開発の意思決定後もコミュニティが参加できるようにしておかなければならない。

松尾氏

豊かさについて、モニタリングしていくことが大切である。

林氏（名古屋大学）

今回の議論で話されていないことは、日本は、今、どういう段階にきているかを考える必要があることである。ドルトムントやイングランドで実施していることをすぐにやることは不可能である。国によって異なる要素が多いから、たとえば失業率なども全く違う。日本にとってどの時期に、そういうことをするのかを考えることが大切であり、長期の計画の上で、お互いを参考にしていけばいいと考える。